

# 竹取新聞

発行所  
株式会社 カグヤ



第166版

理念と実践で  
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤグループも  
毎日元気に配信中!

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで  
f 神家総本家 聴福庵



子どもたちや先生方の楽しそうな声が園内から溢れていました!

## 子どもの姿が大人を変える

「思っていたより、なかなか難しい」と思っていた。園長の森川先生から『見守る保育』を学んだ職員が減ってきて、子どもの可能性を信じてゆとりを持って関わってほしいと思っているもの、なかなか難しい」というご相談でした。ご相談内容を元にくつプロジェクトをご提案させていただきます。定期的に先生方と振り返る場を設けています。

園長はその声を聞き、「熱い想いを受け取り、以前から異年齢をやっていたけれど、と想いを共有していたので、セミナーに参加した先生がやりたいと言ってくれて、いける!」と思えました。その時の心境を伝えてくれました。それから、進めていくための打ち合わせを毎週行っていたそうです。

また、異年齢保育の理解を職員間で深めるために『21世紀型保育のススメ』のDVDを全職員で観て、感想文を書いてもらったとのこと。「思っていた異年齢のイメージではなく、一人ひとりの発達に沿った環境を用意している」と分かった。など、どの先生からも前向きな意見が挙がり、全職員でイメージを共有出来たのも良かったと仰っていました。

また、2月に行った保護者説明会で、諸外国の保育の状況や自己肯定感などの話を保護者の皆様にしました。その上で、「異年齢保育は、子どもにとってのデメリットはありません。ただ、もちろん最初は職員も慣れず戸惑い、上手いかないこともあるかもしれませんが、子どもたちにとっては教え合ったり、手伝い合ったり、いいことしかありません。」と、新年度から異年齢保育を実践する意義や、異年齢保育に切り替える園の想いをお伝えしたそうです。

新年度が始まった4月中旬。園内外で楽しく遊ぶ子どもたちの姿を見ながら、森川園長やプロジェクトメンバーの先生方とお話をさせていただきました。新しく準備した保育環境を見学させていただいたり、100均に何度も保育材料を買い物に行っているお話。日々、試行錯誤中で大変ながらも、笑顔から充実感が溢れている先生方の姿が印象的でした。(奥山卓矢)



玄関には、園が大切にしている保育目標が掲示されていました。

## 今年の田んぼ、スタート!

4月下旬に、千葉の藤崎農場さんの一角をお借りしてお米を育てている「むかしの田んぼ」にて田植えを行いました。藤崎農場の皆さんが3月の種蒔きから1か月半かけて大人の苗になるまでじっくりと見守ってください、この日を迎えることができました。

今回は大人11人、子ども6人のメンバーが集合。まずは田んぼの神様に今年の豊作を祈念し、機械で植えきれなかった箇所を手植えしていきます。初めて田んぼに入る子や、50年ぶりに田植えを体験する人もいて、田んぼに足を踏み入れた際の歓声があちこちから聞こえます。土や苗の



気持ちの良い天気恵まれ、清々しい汗を流しました!

感覚を手足でしっかり味わいながら植えていきました。田植えの合間には、子どもたちは生き物いっぱい田んぼに夢中になり、誰が一番大きなカエルを見つけたか真剣勝負! 大人は畦道に生えている芹の採取に夢中になる人もいて、どう調理したら美味しくいただけるか談義をしている姿もまた、微笑ましい様子でした。

「むかしの田んぼ」では、日本人の主食であるお米を育てることを通して伝統的な神事を体験したり、人と人が集い交流の場が生まれることも醍醐味の一つであると感じています。ここでは年齢や職種は関係なく、初対面でもそれを感じさせない空気が流れます。稲の成長を願ったり、普段食べているお米や生産者さんに感謝したりと、大自然に触れることで共通の想いを持てるのがとても豊かなことだと感じます。そして何より、畦道を走り回る子どもたちの姿が、どんな風景を未来に残したいかを教えてくれます。(眞田由莉)

カグヤでは、それぞれが別々の場所においても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

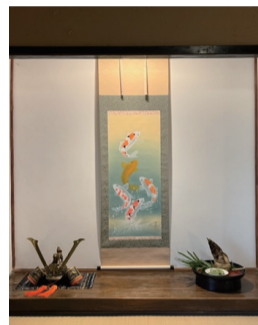
### 旬や風土を意識して



福岡、筑前地方に伝わる「がめ葉もち」。郷土料理を通して、ご縁のある土地に親しみのも楽しいですね。

この春は、地元の方にご指導いただきながら、人生初のたけのこ掘りに挑戦しました。掘り方だけでなく、本来の味を消さないようにと、命を大事にする下ごしらえや料理方法、保存の仕方なども教えて下さり、改めて先人の智慧の偉大さが身にしみました。

また、収穫したたけのこはお料理するだけでなく、柏餅と共に「端午の節供」の室札にも。旬のものや風土に



【端午の節供の室札】  
岩をも砕きまっすぐ天に向かって伸びていく逞しいたけのこの姿に、子どもたちの成長を託します。

あった食べ物には理に適っていて、私たちの命を支え輝かせてくれます。そして季節は移るのもうすぐ6月、水無月です。梅雨時で湿気も多く昔から疫病がはやる季節と恐れられ、平安時代から6月16日は、お菓子を供え、疫病退散と招福を願う「嘉祥の儀」を行っていました。そんな行事も明治には廃れたものの、今は「和菓子の日」として復活もしています。

この日は疫病退散や招福の願いを込めて郷土のお菓子などをお供えし、子どもたちと一緒に日々の無事を感じ謝りたいとしてみる機会としてはいかがでしょうか。（宮前奈々子）

### 日本の智と慧

#### その後②

「日本の智と慧」の掲載が終わって2ヶ月。綴られた25の記事をどのように取りまとめようかとクルー間で話し合う中で、弊社のパートナーとしてお付き合いをいただいているデザイナーの森下さんに相談してみると、早速お電話をしてみると、「藤堂さんにはお世話になったので何かしたかったんですよ」と快諾頂きデザインして下さることとなりました。「藤堂さんの手元に渡った時に、記事一つひとつの思い出が蘇りやすいようなデザインがいいね。」他の方が読む時にこの本が何の本なの



実際の新聞記事を活かして「日本の智と慧」がリニューアル。完成版を皆様にもお届けしたいと思っています。お楽しみに！

かが分かるように前書きがあつたらいいね。」その他諸々・・・と、とても前のめりにアイデアを出していただき、クルーの想像以上の形になり、嬉しくて幸せな気持ちに。

こんな風にいるんな人のアイデアと主体的な思いや行動が集まり、そして形になっていく瞬間に携われるのは幸せなこと。改めてみんなからそんな想いを引き出す働き方を積み重ねてきた藤堂さんを見習っていきたく感じています。（眞田海）

### 一期一会庵

#### 感謝を探し直す 信頼の循環

日々忙しくなってくると、最初に失われていくのが感謝のように思います。自分が大変だと思ったり周囲への思いやりや、誰かからいただいた御蔭様のことよりも、自分の不足や不満ばかり目がいってしまいます。しかし、そういう時こそ改めて感謝を探し直すと驚くほどに存在に助けていただいていることを思い出し、不満や不足がどうでもよくなってきました。

よく考えてみたらそのものの存在がそのまま有難いと思つているときは感謝の気持ちでいるときです。見守る保育を実践する方から「見守らせていただけることが有難い」という言葉をお伺いしたいことがあります。どれだけ保育のなかで子どもや発達に感謝しているのだろうかと思つと、その眼差しの偉大さに尊敬の念がこみ上げてきます。

お米をつくっていても、お米を見守らせていただけることが嬉しい。そして畑で野菜を育てても、野菜を見守られることが仕合せという境地。

そこには、お互いの存在に感謝が往来し、信頼が循環していることを感じます。

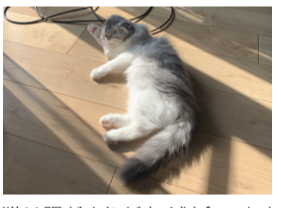
同じ仕事をするのなら、仕事の結果ばかりを見るのではなく、お互いに感謝が往来するような信頼関係を築いていきたいと思えます。そのためには、感謝を磨く感性、感謝を探し出す日々の精進が大切ではないかとも感じました。その都度、毎回、いつもお取引するなかで感謝を探しているか。自分の立ち振る舞いや言動を反省し、感謝を探しているか。ありがたう、すみませんと言える機会を探せば本当に多くあります。感謝が循環する信頼しあう世の中は子どもたちの憧れている未来になるように思います。

コロナも落ち着いてきているからこそ、原点を忘れないようにして子どもも大人も見守り合う社会を実現させていきたいと思えます。

（野見山広明）



### 編集後記



猫は陽だまりがよく似合います。

立夏を過ぎ暦の上では夏を迎え、気持ちの良い日が増えましたね。先日、小学生の息子の宿題で「春の二十四節気を使った俳句作り」というものが出ました。我が家で最近飼いだめた「猫」で春を表現したいと言ふ息子と一緒に知恵を絞りますが、なかなか出てきません。そこで、最近何かと話題のAIで試しに検索してみると、「啓蟄の猫も外出待ちわびる」との回答！なかなかやるなあと感じ。それに考え方のヒントを貰った息子の作品が「春分の猫の背中あたかき」。完全なAI任せではなく、お互い高め合うために使えたら良いのかもしれないと気付かされたのでした。（眞田由莉）

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます



ライトハウス(灯台)  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17  
東京堂神保町第3ビルディング8階  
tel.050-1744-8823  
fax.03-3518-6218

カグヤウェブセンター  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17  
東京堂神保町第3ビルディング8階  
tel.03-3518-6217  
fax.03-3518-6218

働き方と暮らし方の一致  
暮らしフルネスについて

